



▲報道関係者に囲まれ、展覧会をPRするIKKOさん

この日から一般公開された会場は、

「記録を未来永劫残していくために、さらには活用していくのか責任の重さを感じた」と話しました。

披露しました。登録証を受け取った際の感想を聞かれた伊藤市長は「記録を未来永劫残していくために、さらには活用していくのか責任の重さを感じた」と話しました。

IKKOさんが展覧会をPR

3月14日、東京タワー1階「山本作兵衛展」特設会場で、展覧会の開始に先駆けた内覧会が行われ、約60人の報道関係者が詰めかけました。

この内覧会には、田川郡福智町出身で美容家のIKKOさんが特別ゲストとして登場し「筑豊は時代に翻弄されたまちだけど、みんなが命懸けだった場所に生まれてよかった」としみじみと語りました。また、作兵衛氏の炭坑記録画

などを見て「作兵衛さんの絵を魅力的だと思うのは、人柄が透けるような真実味があること」と感慨深げに話しました。

その後、IKKOさんと東京タワーオリジナルキャラクター「ノッポン」、田川市のマスコットキャラクター「たがたん」による写真撮影が行われ、たくさん報道関係者を前に展覧会をPRしました。

3月16日、東京タワー1階「山本作兵衛展」特設会場で、オープニングセレモニーとして「世界記憶遺産登録証披露式典」が行われ、伊藤信勝田川市長が「たがたん」とともに、登録証を披露しました。



▲世界記憶遺産登録証を披露する右から「ノッポン」、前田伸日本電波塔株式会社代表取締役社長、伊藤市長、「たがたん」

積極的な情報発信を

この展覧会は、日本を代表するランドマークである東京タワーで開催され、また、開催期間が52日間という長期にわたっています。このように、今回の展覧会は「山本作兵衛コレクション」と「田川市」を全国的に発信できる絶好の機会です。さらに、本市に課せられた使命であり、世界記憶遺産事業の目的でもある、「山本作兵衛

たぐさんの人でにぎわい、中でも現在はふるさと田川を離れて生活している田川地域出身者などが多く足を運び、懐かしいふるさとの光景に感激した様子でした。

また、この展覧会の会場で山本作兵衛氏の炭坑記録画などに触れ、本市に興味を持つことで「田川市に行ってみよう」とたくさんの人に感じてもらうことも大きな目的のひとつです。その結果、修学旅行や観光などで、たくさんの方に本市を訪れていただくために、そのプロモーション活動に全力を挙げて取り組んでいます。

市では、今後も田川地域に受け継がれてきた炭坑文化などに関する情報を、さまざまな取り組みを通して積極的に発信していきます。

好評開催中！5月6日まで

東京タワー開業55周年記念
世界記憶遺産の炭坑絵師
山本作兵衛展
秘蔵の原画 五十九点
2013年 3月16日 5月6日 月・振休
東京タワー 1階 特設会場
10:00-18:00

- とき ~5月6日(月・振休)10時~18時 (入場は17時30分まで) ※会期中無休
- ところ 東京タワーフットタウン1階特設会場 (東京都港区)
- 入場料 一般(大学生以上)1,200円、小中高生500円(30人以上で団体割引あり)



東京タワー開業55周年記念

世界記憶遺産の炭坑絵師 山本作兵衛展

日本を代表するランドマークである東京タワーの開業55周年にあわせて、山本作兵衛氏の記憶を、東京の地から国内外の多くの人に広く発信しています。なお、山本作兵衛氏の炭坑記録画を単独で紹介する展覧会としては、東京で初めての機会となります。

展覧会の内容

- 第1章 世界記憶遺産 「山本作兵衛コレクション」
世界記憶遺産に登録された山本作兵衛コレクションの複製画10点とあわせて「世界記憶遺産とは」などについて紹介しています。
- 第2章 炭坑の時代
- 第3章 炭坑労働者の生活
- 第4章 炭坑記録画
- 第5章 人間・山本作兵衛
世界記憶遺産未登録の炭坑記録画の原画59点が展示され、当時の社会の風景、家族の日常生活、坑内の採掘作業や坑外の作業工程などを紹介しています。



▲会場の出口付近に設置された、旧産炭地のPRブース



▲炭坑記録画を興味深そうに観覧する来場者

記憶を共有する全国の旧産炭地である6都市(北海道釧路市、夕張市、福島県いわき市、山口県宇部市、福岡県大牟田市、長崎県長崎市)と連携し、当時の炭坑文化を紹介するとともに、地元写真家の写真パネルの展示などを行っています。

第6章 昭和33年
昭和33年に東京タワーが開業する一方で、作兵衛氏が本格的に記録画制作に着手した頃であることを踏まえ、高度経済成長期を迎えた日本において当時流行した製品などを紹介し、当時の世相とできごとを振り返っています。

また、特設会場出口付近では、本市と旧産炭地の6都市のPRパネルやポスターの展示、パンフレットを設置するなど、炭坑文化の紹介や観光PRを行っています。